

[新刊紹介] ヒメバチ・コマユバチとハナバチの検索図説

前藤 薫

最近『日本産ハバチ・キバチ類図鑑』が出版されて、ハチ目昆虫も多くが図鑑で同定できるようになったが、小さくて膨大な種数を擁する寄生バチ類の図鑑による同定が可能となることはないだろう。しかし、寄生バチのもつ豊かな多様性を、できるだけ分かり易く、かつ正確に伝える努力が大切であることは言うまでもない。

ヒメバチ類とコマユバチ類からなるヒメバチ上科は、寄生バチの仲間のなかでは比較的大型なのでよく目に留まる。だが、種数がやたらに多く、アゲハヒメバチやウマノオバチのように特徴的なものを除けば、種レベルの同定は難しい。種の検索表を探して同定に挑戦しようにも、これまでは日本語による亜科や属の同定手引きがなくてお手上げであった。

この夏に出版された渡辺恭平・藤江隼平による『日本産ヒメバチ上科(膜翅目)の属への検索表』は、そうした状況を打破して、ヒメバチ・コマユバチ類の「見える化」を進めようとするものである。日本に産する(あるいは未記録だが分布している可能性が高い)ヒメバチ上科の全亜科・全属を同定するための検索表が掲げられ、それらを読み解くための写真や線画が多数添えられている。あらかじめ日本語と英語を対比しながら形態用語が整理されていて、これは英語の原著論文を読み解くときの助けにもなるだろう。寄生バチの調査採集法や標本作製法のコツも詳しく述べられていて参考になる。

本検索図説は、「神奈川県立生命の星・地球博物館特別出版物」の第2号として電子出版されたもので、下記のURLにアクセスすれば誰でも自由に利用できる。

<https://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1643173895521/index.html>

寄生バチは近寄りがたいと思われる方も、ぜひのぞいてみて頂きたい。カラー画像によって豊かな造形が楽しめるだけでなく、何よりも小林純子氏の描画による全形図がじつに見事である。個人的には、コマユバチ科の形態の奇抜さは、属種数では引けを取るものの、ヒメバチ科を大きく凌駕していると思う。ちなみに、表紙の全形図はハエヤドリコマユバチ亜科の一種である。腹部(後体節)の背板はほぼ一体化して"甲羅"のようになり、大あごは"外向き"に咬む構造になっている。

同じ「神奈川県立生命の星・地球博物館特別出版物」の第1号として出版されているのが、渡辺恭平・長瀬博彦による『日本産ハナバチ類の同定の手引き』である。こちらは、種レベルの検索図説である。緒言に述べられているように、ハナバチ類の同定は『日本産ハナバチ図鑑』の出版によって容易になったが、さらに検索表を整備することによってより確実な同定を可能にしようとするものである。『日本産ハナバチ図鑑』を読み解くための補助線として作成されているものの、多くの素晴らしい写真や線画が添えられていて圧巻である。ハナバチ類の標本作製法や形態用語の解説も有用であろう。

(Kaoru MAETO 兵庫県宝塚市)

